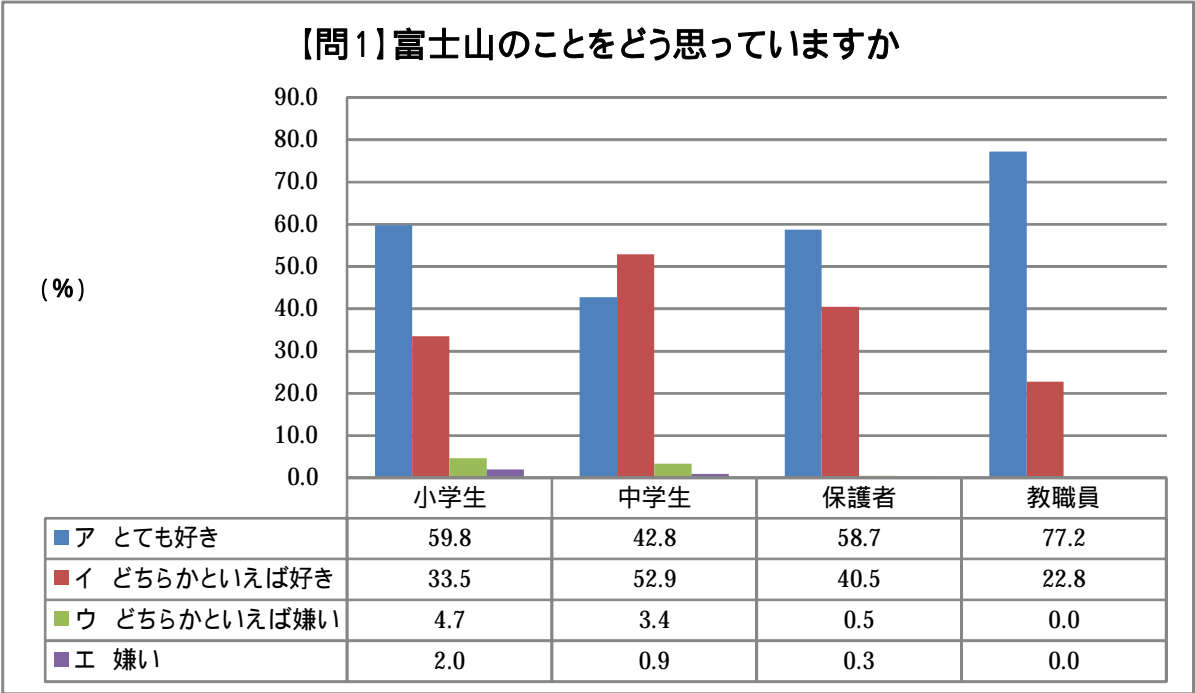


## 「富士山に関するアンケート調査」結果



- 1 実施主体 富士河口湖町立教育センター
- 2 実施目的 富士山に関するご意見、お考えなどをお聞きし、これからの富士山学習の基礎資料とする。
- 3 実施対象 富士河口湖町内の全小・中学生、保護者、教職員の皆さん
  - ・小学生 1,459名(5・6年生;527名)
  - ・中学生 860名
  - ・保護者 1,569名
  - ・教職員 202名
- 4 実施時期 2012(H24)年 1学期中
  - ・一次集約 6月中(問1~6)
  - ・二次集約 7月中(問7~13)

問1 富士山のことをどう思っていますか。1つだけ選んで でかこんでください。

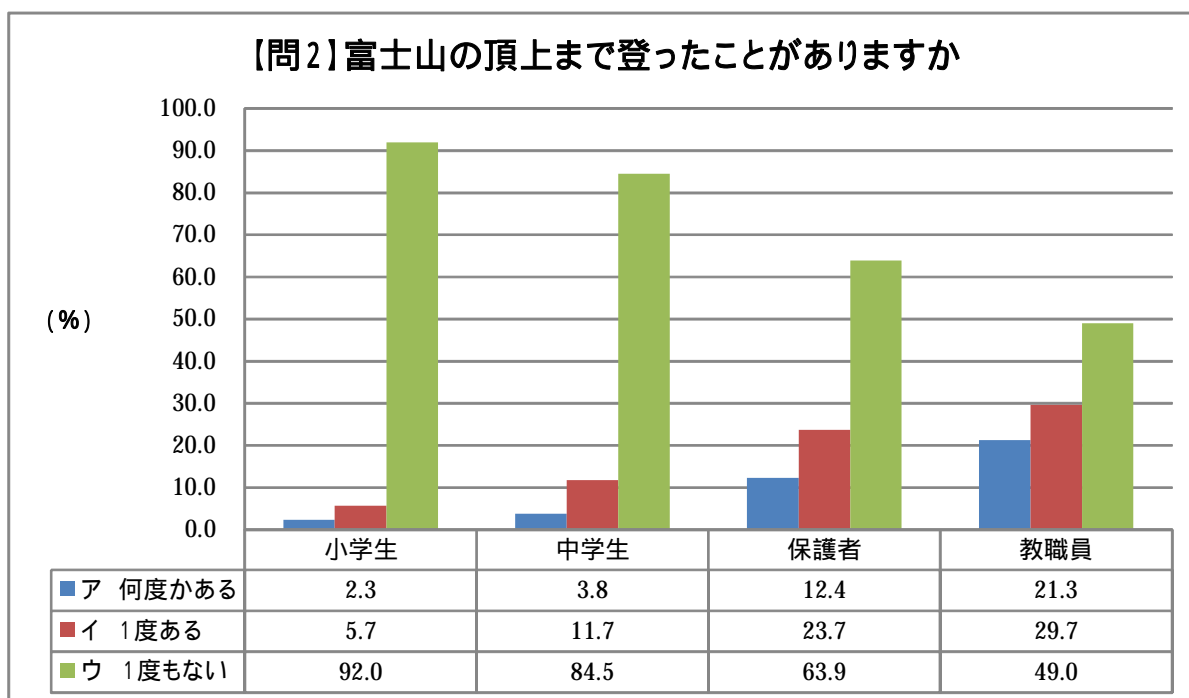


< 調査結果 >

富士山のことをどう思っているかについては、小学生は「とても好き」(59.8%)「どちらかといえば好き」(33.5%)となっており、合わせると 93.3% が好きと回答している。中学生は「とても好き」(42.8%)「どちらかといえば好き」(52.9%)となっており、合わせると 95.7% が好きと回答している。保護者は「強い愛着を感じる」(58.78%)「少し愛着を感じる」(40.5%)となっており、合わせると 99.2% が愛着を感じている。教職員は「強い愛着を感じる」(77.2%)「少し愛着を感じる」(22.8%)となっており、合わせると 100.0% と全員が愛着を感じている。

古くから日本人の心を引き付け、夏には登山客でにぎわう霊峰富士は、その類まれなる美しい自然景觀により、人の心を打ち、古くから信仰の対象となるとともに、芸術の源泉になってきた。私たちが富士山を好きと感じる最大の理由は、知らず知らずのうちにこの富士山から自然の恵みや、生きる喜びを与えられ、どこにいても「心の故郷」として慈しむなど、日常生活における富士山との関わりの中で愛着が生まれ、これが蓄積されてきたからであろう。日本のシンボルである「富士山」のある町に暮らす一町民として、富士山とのかかわりを通して、自然に対する畏敬の念や郷土に誇りをもち、郷土を愛する子どもを育てることが大切である。

問2 富士山の頂上に登ったことがありますか。1つだけ選んで でかこんでください。



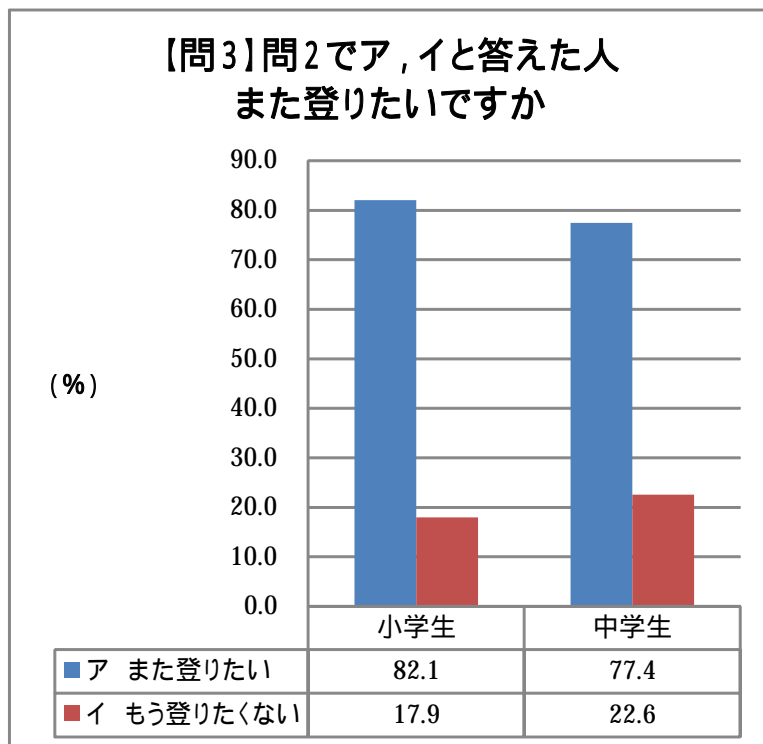
< 調査結果 >

富士山の頂上まで登ったことがありますかについては、小学生は「何度かある」(2.3%)「1度ある」(5.7%)となっており、合わせてもわずか 8.0% だけしか登っていない。中学生は「何度かある」(3.8%)「1度ある」(11.7%)となっており、合わせると 15.5% が登っている。保護者は「何度かある」(12.4%)「1度ある」(23.7%)となっており、合わせると 36.1% が登っている。教職員は「何度かある」(21.3%)「1度ある」(29.7%)となっており、合わせると 51.0% で 2人に1人が登っている。

【資料】2005(H17)年に 20 万人程度だった富士登山者が 2008(H20)年に 30 万人を越え、昨年は福島原発事故や円高の影響で外国人登山者が減少したにもかかわらず 29 万人だった。登山者が増えた要因については、2007(H19)年から世界文化遺産登録に向けた取り組みで注目が集まった。山小屋の環境配慮型トイレ増設や宿泊環境の改善に取り組んだ。3割以上が外国人登山客と言われていて、そのツアーも増えている。など、色々な理由があると分析されている。また、なぜ 30 万人もの人々が富士山に登るかの理由については、御来光をみるため。日本一の山だから。誕生日・還暦を迎えた記念に。健康のために。など、色々あげられている。

問3 問2でア、イと答えた人が答えてください。

また富士山に登りたいですか。1つだけ選んで でかこみ，理由も書いてください。

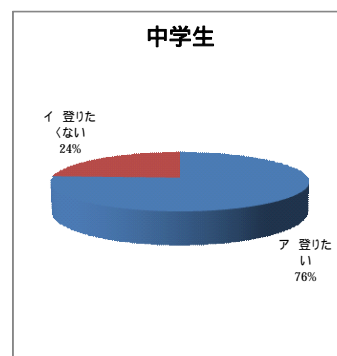
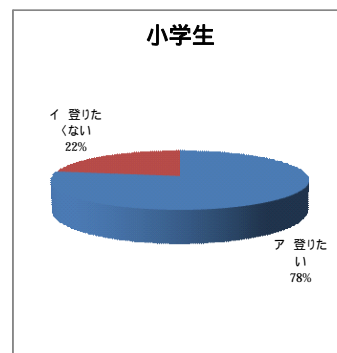
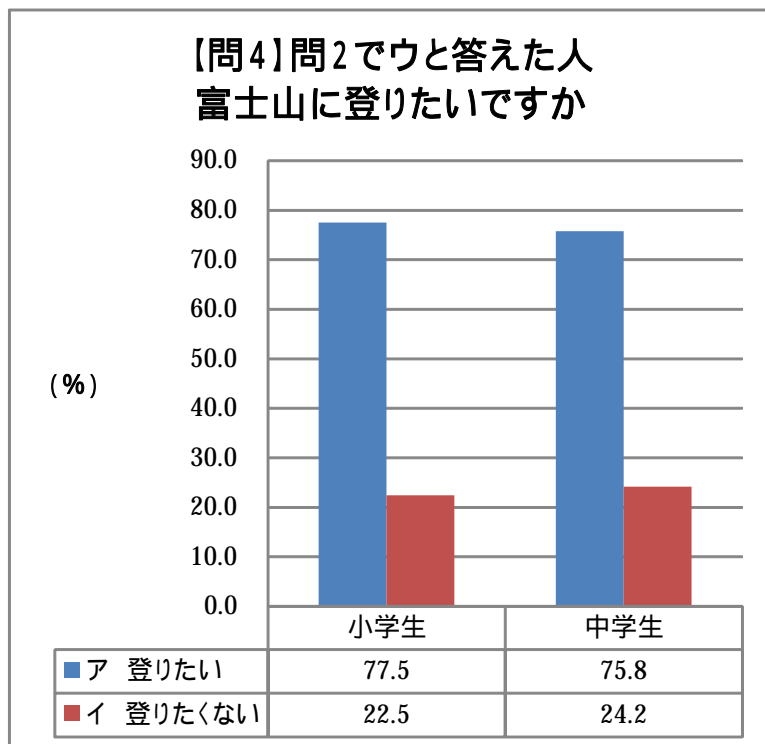


< 調査結果 >

問2でア、イと答えた人、また登りたいですかについては、小学生は「また登りたい」(82.1%)、「もう登りたくない」(17.9%)と回答している。中学生は「また登りたい」(77.4%)、「もう登りたくない」(22.6%)と回答している。小・中学生とも8割前後が「登りたい」と回答しており、「そこに山があるから」の名言で知られる登山家ジョージ・マロリー氏の逸話のように、日本一高い山への再挑戦する意欲が高いことは嬉しいことである。

問4 問2でウと答えた人が答えてください。

富士山に登りたいですか。1つだけ選んで でかこみ，理由も書いてください。

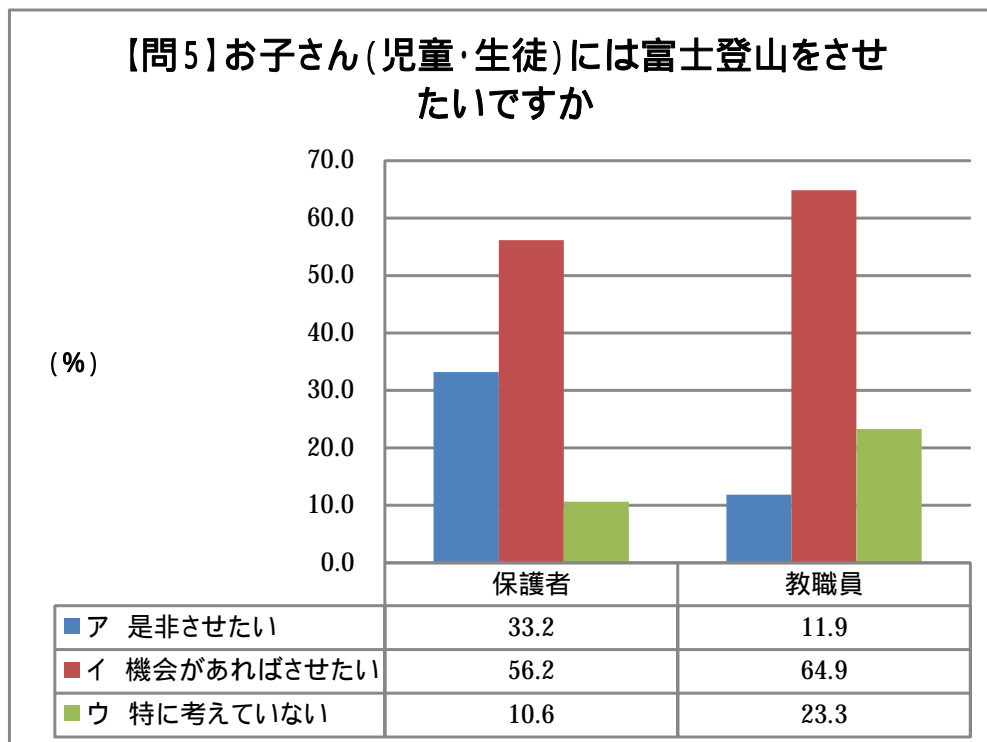


< 調査結果 >

問2でウと答えた人、富士山に登りたいですかについては、小学生は「登りたい」(77.5%)、「登りたくない」(22.5%)と回答している。中学生は「登りたい」(75.8%)、「登りたくない」(24.2%)と回答している。小・中学生とも7割以上が「登りたい」と回答しており、関心の高さを示していることは嬉しいことである。反面、「登りたくない」と回答している子どもたちは、登山に対してのハードルの高さを感じているようである。

既存調査で登山をしたことが「ない」と回答した人は、その理由として、登山には事前の下調べや準備が必要になるため、「機会がない」と登山へ行こうと思わないこと、「体力に自信がない」こと、「一緒に行く相手がいない」こと、などが挙げられている。その意味では、町長の「富士登山を子どもたちに経験させたい。」という願いについては一定の理解は得られよう。

問5 お子さんに（児童・生徒）に富士登山をさせたいですか。  
1つだけ選んで でかこんでください。

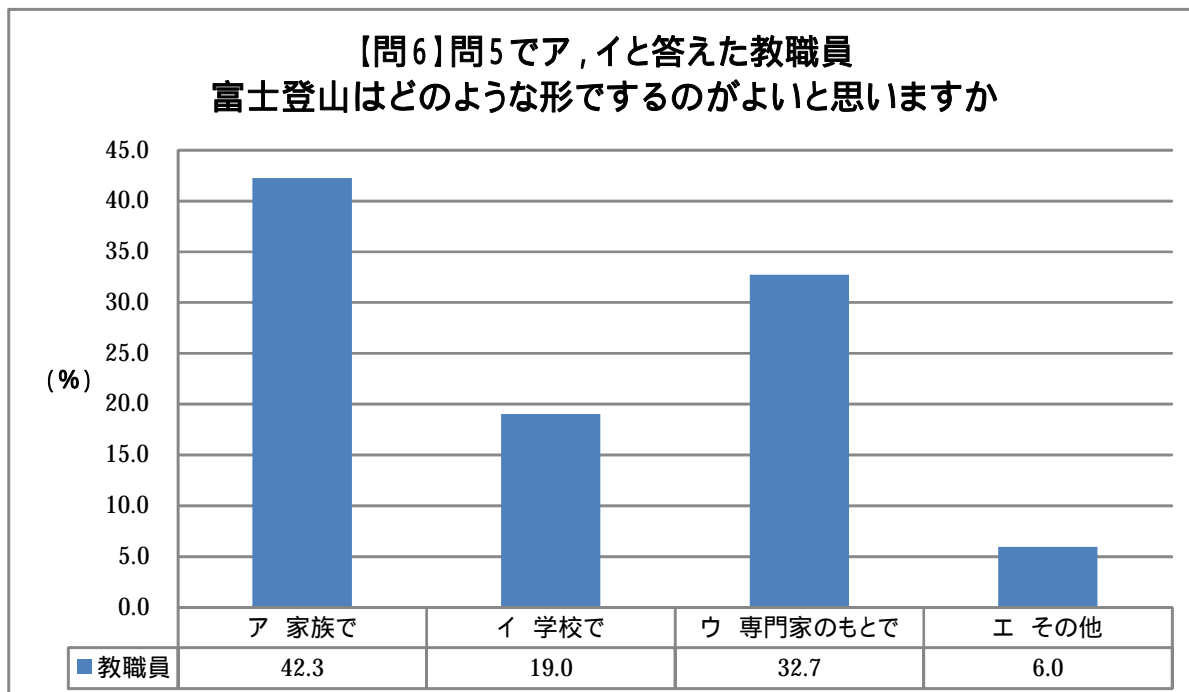


< 調査結果 >

お子さんに（児童・生徒）に富士登山をさせたいですかについては、保護者は「是非させたい」（33.2%）「機会があればさせたい」（56.2%）となっており、合わせると 94.4% が登山をさせたいと回答している。教職員は「是非させたい」（11.9%）「機会があればさせたい」（64.9%）となっており、合わせると 76.8% が登山をさせたいと回答している。

保護者は9割以上と圧倒的多数が「登山をさせたい」と回答しており関心の高さを示している。一方、教職員は7割強と若干ポイントが低い。おそらく「危険や厳しさを伴う登山への不安」などがある考えられる。

問6 問5でア、イと答えた方がお答えください。富士登山はどのような形であるのがよいと思いますか。1つだけ選んでください。



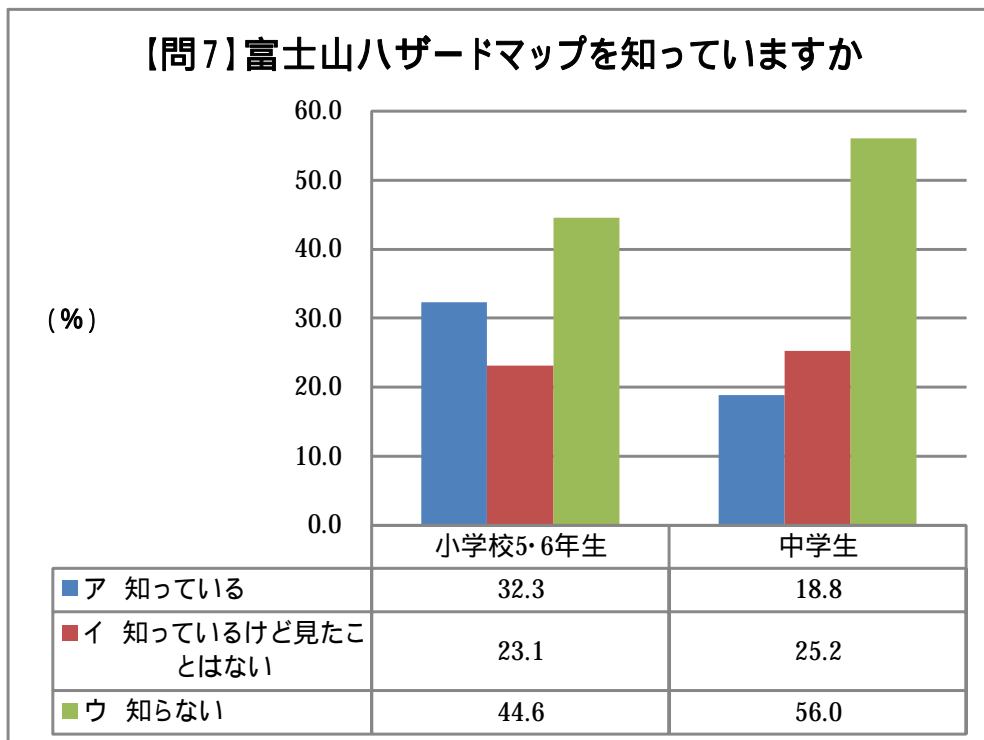
< 調査結果 >

問5でア、イと答えた人、富士登山はどのような形であるのがよいと思いますかについては、「家族で」(42.3%)が最も多く、次いで「専門家のもとで」(32.7%)「学校で」(19.0%)となっている。

世界最高峰エベレストの登頂に成功し、自身が持つ女性最高齢記録を更新した渡辺玉枝さん(73)は、「講演を通して、登山経験がない人が少しでも山や自然に興味を持ち、地元にある富士山に親しんでもらいたい」と話している。この夏、多くの家族が富士登山に挑戦することを期待したい。

富士河口湖町教育委員会は、富士登山検討委員会を設置し、町長のマニフェスト「富士登山を中学3年生までに経験させることで、郷土愛を育み心身ともに健康な子どもの育成を図る」の実現のため、今年度中に計画書を作成し、2013(H25)年に児童生徒を対象にした富士登山の実施に向け準備を進めている。是非、教育委員会社会教育課の主催で、専門家の富士山ガイドや小学生をサポートしながら富士登山をするボランティア等を募り、支援体制を整える中で、6年生で富士山登頂の経験がなく、保護者や保護者に代わる人が同伴できる人を対象に『親子富士登山』を実施している他市町村の例を参考にするなど、目的が達成できることを期待したい。

問7 富士山ハザードマップを知っていますか。1つだけ選んで でかこんでください。



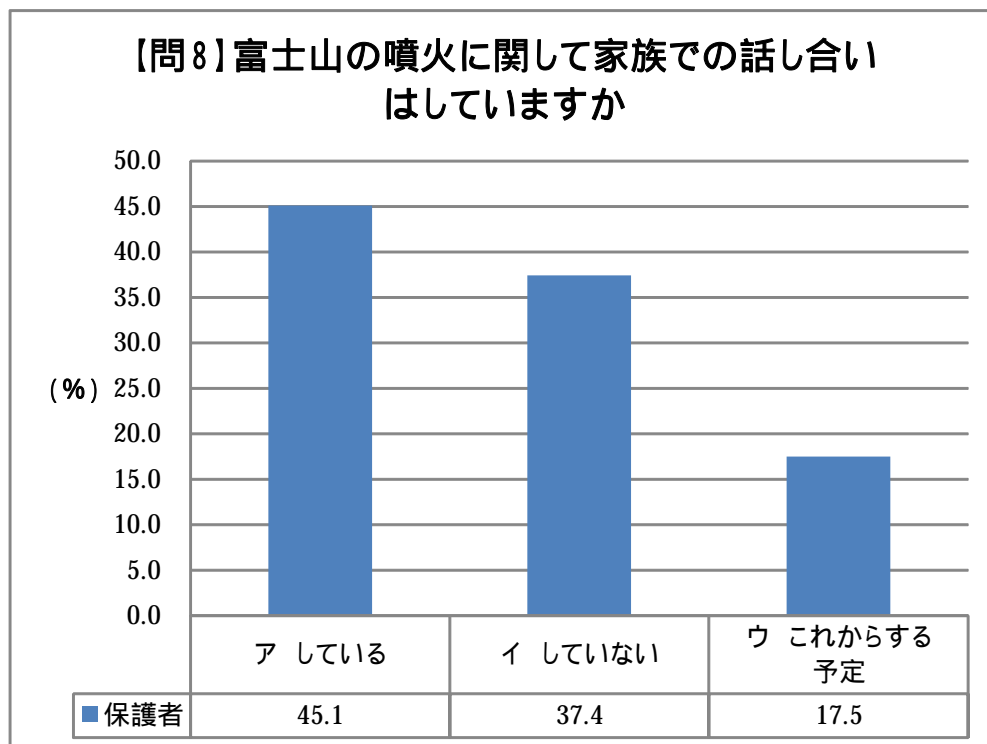
< 調査結果 >

富士山ハザードマップを知っていますかについては、「知っている」と回答している小学校5・6年生は32.3%、中学生は18.7%と低い。反対に「知っているけど見たことがない」「知らない」と回答している小学校5・6年生は67.7%、中学生は81.2%と非常に高い。

2004(H16)年6月に作成された富士山ハザードマップ(富士山火山防災マップ)をもとに、一般の人たちにもわかりやすいように噴火警戒レベルごとの避難方法などの解説を加えた富士山ハザードマップ(富士北麓版)は、2006(H18)年3月に発行され、4月には全戸に配布、2010(H22)年3月には修正されホームページに掲載されている。しかし、子どもたちの認知度は、配布から6年が経過し、非常に低下している。また、富士山ハザードマップという言葉そのものには触れていても、中身そのものについての理解度は十分ではないと思われる。富士山は、「噴火のデパート」ともいわれ、今後も噴火する可能性のあるれっきとした活火山であることを認識させ、マップ作成目的や基本的な見方、災害時の対応などを学ばせるとともに、防災に対する住民全体の関心を高める必要がある。



問8 富士山の噴火に関して家族での話し合いはしていますか。  
1つだけ選んで でかこんでください。

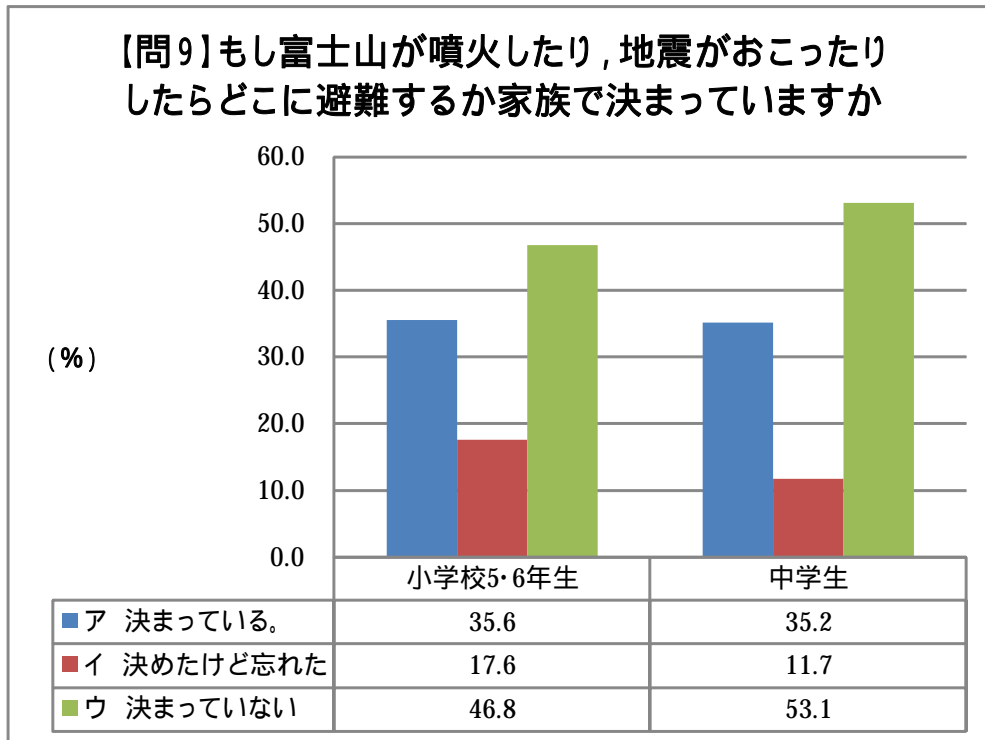


< 調査結果 >

富士山の噴火に関して家族での話し合いはしていますかについては、保護者は「している」(45.1%)となっている。反対に「していない」(37.4%)「これからする予定」(17.5%)となっており、合わせると54.9% がしていないと回答している。

火山予知連絡会会長の藤井敏嗣東大名誉教授は、東日本大震災で地殻構造が大きく変化したことを挙げ、「南海トラフの巨大地震も想定され、富士山の火山活動が活発化する可能性は十分ある」との見解を示している。また、山梨、静岡、神奈川の3県は、防災担当者らが対策を検討する協議会を発足させ、2012(H24)年度中に広域的な避難計画を策定し、2014(H26)年度までに3県合同で避難訓練を行うことを決めている。このような背景があるにもかかわらず、大規模な噴火では前兆現象があるため、対処の予知があることから切迫感が少なく、あまり話し合いは行われておらず、家族でしっかり話し合う機会を設けていく必要がある。

問9 もし富士山が噴火したり、地震がおこったりしたらどこに避難するか家族で決まっていますか。1つだけ選んで でかこんでください。

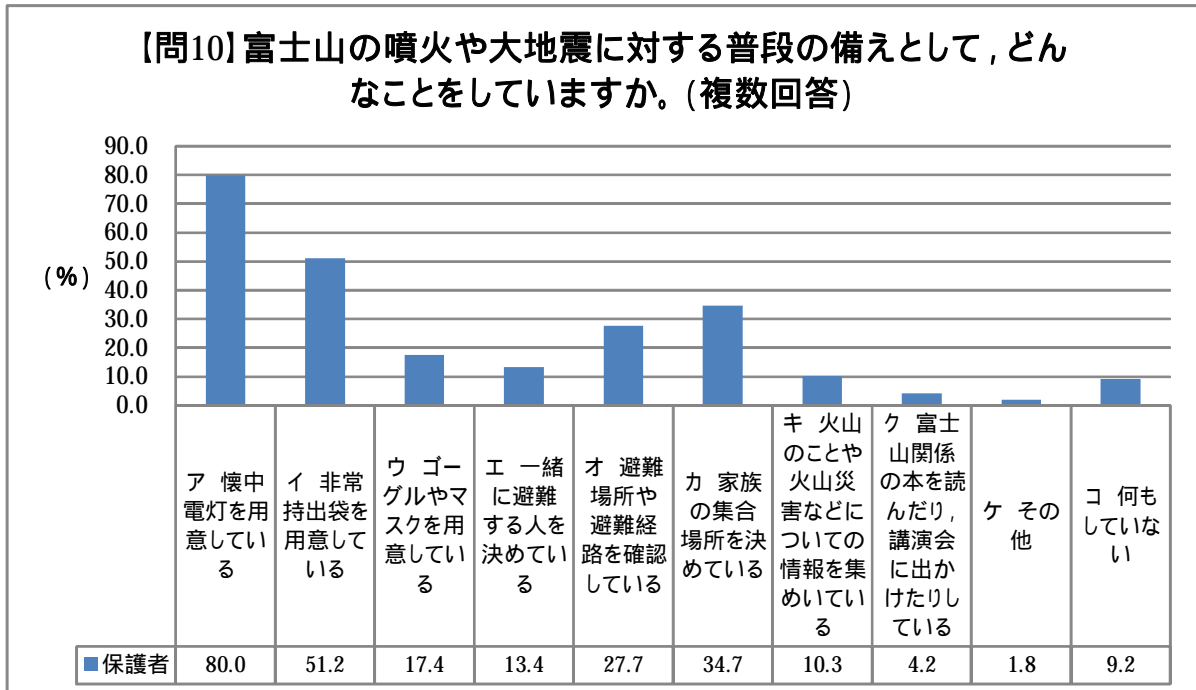


< 調査結果 >

もし富士山が噴火したり、地震がおこったりしたらどこに避難するか家族で決まっていますかについては、小学校5・6年生は「決まっている」(35.6%)「決めただけで忘れた」(17.6%)「決まっていない」(46.8%)と回答している。中学生は「決まっている」(35.2%)「決めただけで忘れた」(11.7%)「決まっていない」(53.1%)と回答しており、小学校5・6年生・中学生とも、「決めただけで忘れた」「決まっていない」を合わせると6割以上となっている。

災害時の避難場所は地域ごとに市町村で決められているが、単に小学校というだけでは、その場所に人が溢れなかなか出会えない。校庭の滑り台のそばとか、砂場のそばとか家族の集合場所を平常時に具体的に決めておく必要がある。いつ起こるかわからない災害。各家庭の防災教育の推進を啓発し、日頃から災害発生時などの緊急時の各自ですべきことや避難方法、連絡方法など、家族で話し合っておくことを訴えていく必要がある。

問 10 富士山の噴火や大地震に対する普段の備えとして、どんなことをしていますか。  
 当てはまるものを でかこんでください。(複数回答)

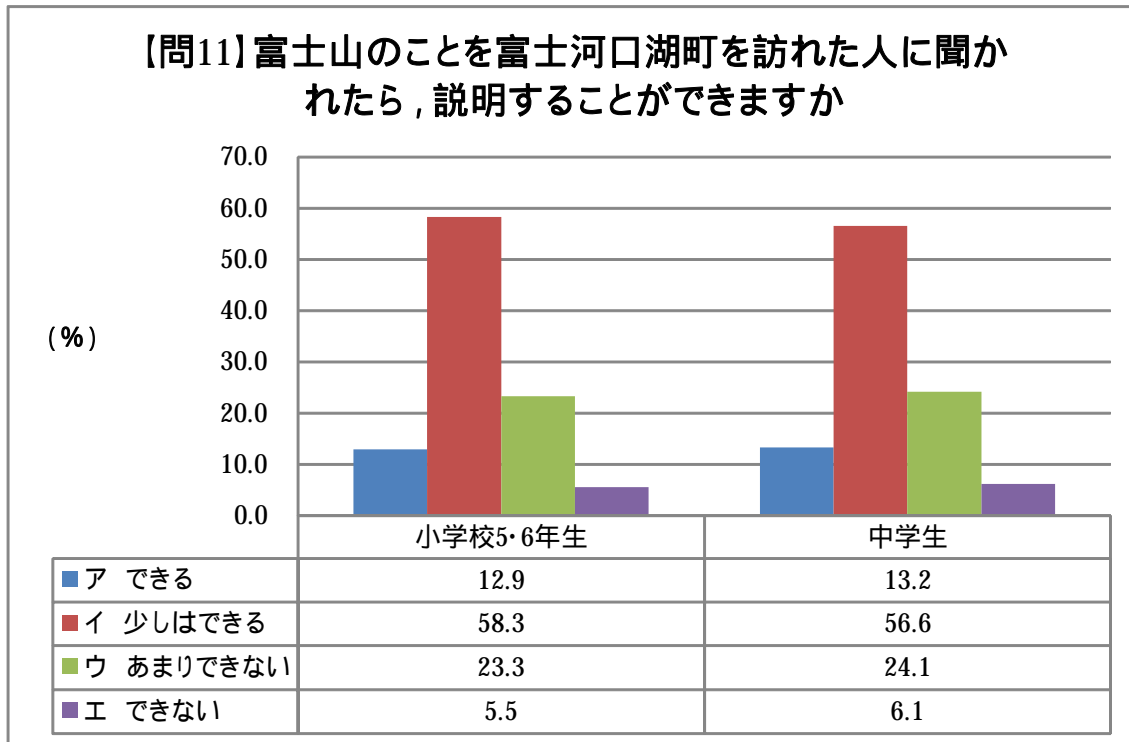


< 調査結果 >

富士山の噴火や大地震に対する普段の備えとして、どんなことをしていますか(複数回答)については、「何もしていない」という保護者は9.2%で、何らかの対策をしている人が多い。具体的な対策としては、懐中電灯の用意(80.0%)、非常持出袋の用意(51.2%)、家族の集合場所を決めている(34.7%)などが多かった。

2000年10月から2001年5月にかけて、火山活動と関係があるとされる低周波地震が多発した後の2003年3月の概存調査に比べると、東日本大震災の影響を受けてか何らかの対策をしている保護者が増えており、懐中電灯・非常持出袋・ゴーグル・マスク等の用意、家族の集合場所を決めているでポイントが大きく増えている。しかし、富士山ハザードマップが2006年3月に配布されたにもかかわらず、避難場所や避難経路を確認している(27.7%)のポイントは変わらず、火山のことや火山災害などについての情報を集めたり(10.3%)・富士山関係の本を読んだり、講演会に出かけたり(4.2%)などのポイントは減少しており対策が必要である。

問11 富士山のことを富士河口湖町を訪れた人に聞かれたら、説明することができますか。  
1つだけ選んで てください。

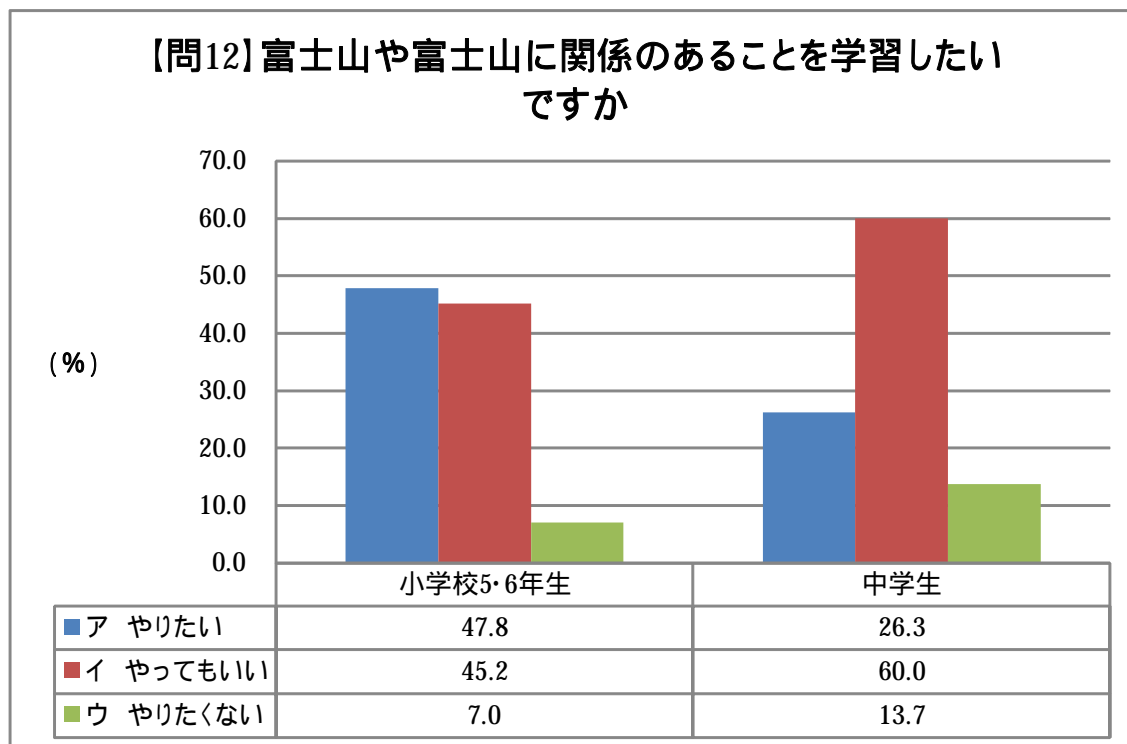


< 調査結果 >

富士山のことを富士河口湖町を訪れた人に聞かれたら、説明することができますかについては、小学校 5・6 年生は「できる」(12.9%)「少しはできる」(58.3%)となっており、合わせると 71.2% ができると回答している。中学生は「できる」(13.2%)「少しはできる」(56.6%)となっており、合わせると 69.8% ができると回答している。

山梨おもてなしアドバイザーの高野登さんは、「『富士山もよかったけど、地元の人が一番すてきだった』。訪れた人にそう言われるような、おもてなしを目指したい。」と語っている。「おもてなしの根本は、もてなす人の郷土愛であり、幼い頃からの家庭教育や地域教育、学校での教育が大切」と言い、「地域の風土に誇りを持つことが、郷土愛の一番いい形」としている。歴史的な世界のシンボルであり日本のランドマークとしての「富士山」を湖とともに与えられた富士河口湖町地域は、風光明媚な自然環境の中で豊富な観光資源に恵まれ、国内外から多くの観光客を迎えている地域である。自信を持って説明できる子どもたちを育成したい。

問12 富士山や富士山に関係のあることを学習したいですか。  
1つだけ選んで てください。

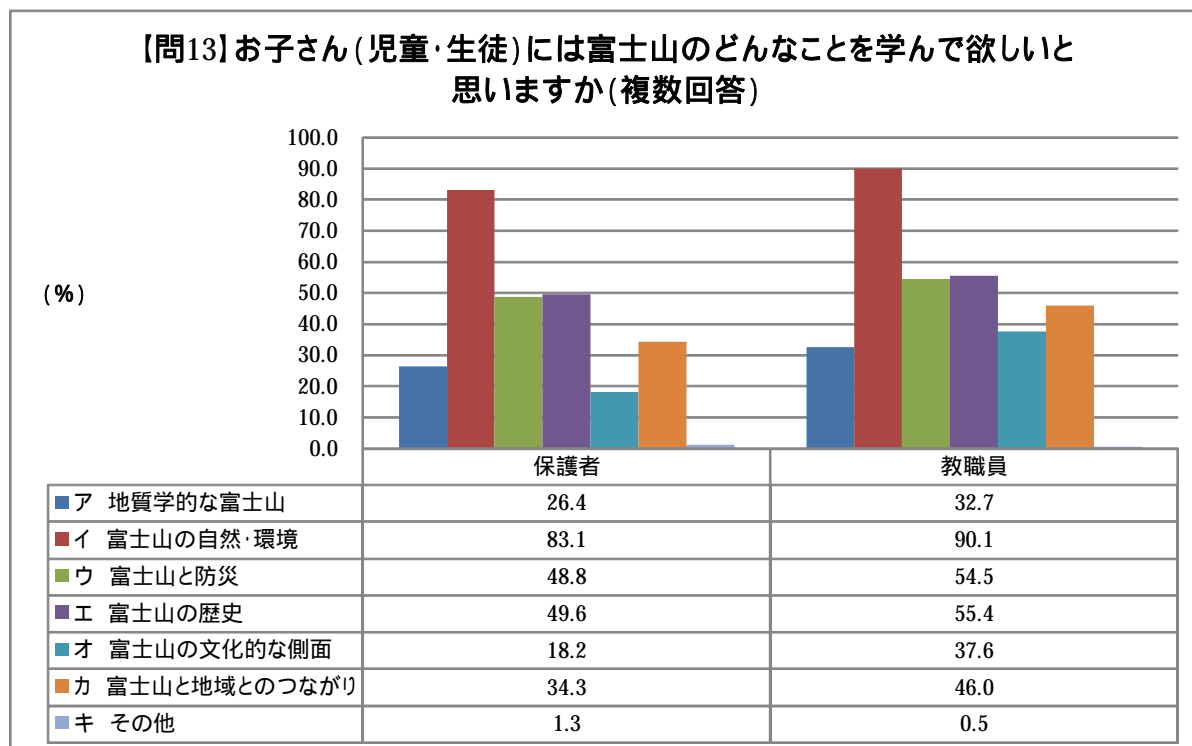


< 調査結果 >

富士山や富士山に関係あることを学習したいですかについては、小学校 5・6 年生は「やりたい」(47.8%)「やってもいい」(45.2)%となっており、合わせると 9 割以上がやりたいと回答している。中学生も「やりたい」(26.3%)「やってもいい」(60.0)%となっており、合わせると 8 割以上がやりたいと回答している。

古くから日本人の心を引き付け、夏には登山客でにぎわう霊峰富士。圧倒的な姿形の美しさに加え、噴火する活火山であるという一面は、人々の信仰心を一層高めている。子どもたちは、端正な美しさに幾度となく心を奪われ、底知れない力強さに畏怖している。母のような優しさと、父のような厳しさを備え、そして気づけば、いつでもそばで励ましてくれる友のような存在である。知らず知らずのうちに子どもたちは、富士山から自然の恵みや、生きる喜びを与えられ、どこにいても「心の故郷」として慈しんできている。私たちは家族や地域の方々と一緒に、子どもたちの学習したいという思いを大切に、富士山をテーマにした組織的・計画的な学習活動を展開していくことが求められている。

問 13 お子さん（児童・生徒）には富士山のどんなことを学んで欲しいと思いますか。  
 当てはまるものを でかこんでください。（複数回答）



< 調査結果 >

お子さん（児童・生徒）には富士山のどんなことを学んで欲しいと思いますか（複数回答）については、保護者は「富士山の自然・環境」（86.1%）が最も多く、次いで「富士山の歴史」（49.6%）「富士山と防災」（48.8%）と続いている。教職員も「富士山の自然・環境」（90.1%）が最も多く、次いで「富士山の歴史」（55.4%）「富士山と防災」（54.5%）と続いており、同じ傾向がうかがえる。

私たちの住んでいる富士河口湖町は、古くから富士山と湖を観光資源として、基盤産業である観光産業で栄えている。また、その秀麗な姿は、日本人の心の故郷として親しまれ、近年は富士山を世界遺産とする動きもあり、環境保全も推進されている。とりわけ富士山は、日本の象徴であり、21 世紀を担う子どもたちに富士山の自然、景観、歴史、文化を大切にするという思いを自覚させ、「心の故郷」「美しい山」として継承することが私たち大人の務めでもある。

富士山は古来から多くの人々に親しまれ、愛されてきた日本のシンボルであり、我が国の文化や芸術の源泉ともなる日本人にとってなくてはならない存在となっております。教育センターでは、この富士山について次代を担う町の子どもたちが、学び、考え、思いを寄せ、後世に引き継ぐことができる子になって欲しいと願っています。町内の児童・生徒及び保護者・教職員を対象に実施した今回の「富士山に関するアンケート」の調査結果が、富士山を学習したい・させたいという思いを再確認することができ、子どもたちの「富士山学習」充実に向けての動機づけ資料となることを期待しています。

本調査に当たり、ご協力をいただいた各学校や児童生徒、保護者の皆さん、また集約してくださった先生方に深く感謝申し上げます。

**富士河口湖町立教育センター研究員**（「アンケート調査」協力）

中村 春子（船津小）	小河原徳博（小立小）	三浦 武夫（大石小）
梶原 真希（河口小）	高尾 篤史（勝山小）	小林 広美（西浜小）
村上なおみ（大嵐小）	倉田 友紀（豊茂小）	小野 剛（湖北中）
小池としみ（勝山中）	奥秋 幸仁（西浜中）	高橋 幸司（湖南中）

富士河口湖町立教育センター

担当 武藤 郁夫

TEL 0555-83-3022

FAX 0555-83-3044

E-mail ed-center@kawaguchiko.ne.jp